

# 農業ふれあい公園だより No. 20

2013  
FEBRUARY

【岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館】 岩手県北上市飯豊3-110 TEL 0197-68-3975



農業れきし館



農業かがく館



収蔵室



ふれあい公園

岩手県立農業ふれあい公園・農業科学博物館には、江戸時代後期から昭和40年頃まで農作業や暮らしに使用していた用具など、約4,500点の資料が収蔵されています。

第1展示室「農業れきし館」は、岩手の広大な大地と風土で営まれてきた農業の歴史と作業の様子、人々の暮らしを感じながら見学していただける構成となっています。

第2展示室「農業かがく館」は、「田んぼの世界」「冷蔵庫の中」「牛のからだ」の3つの部屋があり、クイズやゲームを通じて岩手の農業を楽しく体感できるように展示しています。

収蔵室には寄贈、収集した貴重な資料約3,000点が収蔵されており、希望の方は見学することができます。

農業ふれあい公園は、広さ17.1haの広大な敷地で、四季折々多種多様な樹木の花々を楽しむことができます。芝生広場、ひょうたん池、棚田、広い駐車場、トイレも整備されています。

～ご利用案内～

【開館時間】

9:00～16:30

(入館は16:00まで)

【休館日】

毎週月曜日

(ただし祝日の場合は翌日)

年末年始

(12月29日～1月3日)

【入館料】

小・中・高校生は無料

個人…学生140円／一般290円  
団体(20人以上)

学生70円／一般140円

# 平成24年度 企画展レポート

## 第52回企画展

### 畜力と農作業 ～稲作実態調査から～

平成24年4月8日～6月29日



エンジンを使った農機具が登場する昭和35年頃までは、農作業は牛馬を使った体系が主体でした。牛馬は耕起、代掻、運搬作業など労働生産性の向上やこれらを飼養することによる堆肥の生産で土地生産力を高めるなど、農家の生活に欠かせないものであり、家族と同じように扱われながら生活を共にしてきました。

岩手県では昭和30年のはじめに、県下の稲づくりについて作業の実態調査を行っており、企画展では、この調査を基に、当時の畜力活用

による稲作り作業の様子や、飼養用具、作業用馬具などを展示しながら当時の農業の様子とその変遷について紹介しました。



## 第53回企画展

### むかしの暮らし ～台所の道具～

平成24年7月5日～9月30日



人々にとって、食生活は欠かせないもの。そして食生活の中心的な役割を果たしているのが台所です。台所は、文化の発達に応じて形を変え、さまざまに変化してきました。

古来、日本人は、米、麦、粟、黍、豆の五穀をはじめ、木の実、山菜、海草、魚介、鳥獣等、実に多彩な食料を栽培、採取、捕獲し、それらを調整し、ときに貯蔵し、旬に合わせて調理し、より良い食生活が営めるよう工夫をしてきました。

食べる営みのよりどころである台所には、昔の人々が日常生活の中で使いこなしてきた道具が多くあります。企画展では、これらの変化を知り、今後の暮らしを考えていただく機会として、むかしの台所で用いられた道具を展示し、紹介しました。



## 第54回企画展

むかしの岩手 ～地域食生活と穀物脱穀・加工調整用具～

平成24年10月6日～12月27日



岩手県は広大な県土のなかで、地域によって地形や気象条件が大きく異なり、そこに住む人々は、その土地に適した様々な穀物を生産し、農業を営んできました。

昭和中期までの農家の食生活は、穀物と地域で手に入る食材を副食料として組み合わせ、栄養の調和をはかり、また、伝承されている加工や貯蔵などにより、冷涼な気候の県北部では主食料として稗、豆類、小麦(平常食)とそば料理(晴れ食)、比較的温暖な県中南部では、米、麦(平常食)ともち料理(晴れ食)など、地域の特徴を

生かした食文化が形成されてきました。企画展では、主食料である穀類の脱穀、精白、製粉等の調理用具の変遷と、当時の特徴ある地域の食べ物や食べ方を紹介しました。



## 第55回企画展

生活に使われた道具

平成25年1月11日～3月30日



自給自足を基本としたむかしの暮らしの中では、衣食住に必要なほとんどの物を地元で確保してきました。

生活も仕事も手作業だった頃の道具からその当時の人々の生活の知恵を学ぶ事ができます。

暖をとる道具や灯とりなどからも物を大事にした暮らしの様子を知ることができます。



企画展では、衣・食・住の暮らしで用いられた道具の展示と「大根かて切り」の使用体験を通じて、むかしの暮らしを体感していただきました。

## お知らせ

### 第56回企画展「暮らしと稲わら加工」

開催期間 平成25年4月7日(日)～6月28日(金)

稲わらが広く利用され始めたのは、鉄製の柄鎌で稲株を地際から刈り取り始めた7世紀頃と推察されます。

稲わら加工に使われた道具や手づくりのわら加工品を紹介しながらむかしの暮らしと技、豊かな生活の知恵と文化を考えます。



### 多目的ホールの貸し出し

農業科学博物館では、県民の皆様が多目的ホールを無料で貸し出しています。

写真や絵画などの「作品展示」や、「学習活動の発表会」など、皆様のアイデアで色々な使い方ができます。

利用を希望される方は、博物館にご相談ください。



# 博物館・公園トピックス

## ふれあい公園棚田で田植え 平成24年6月6日(木)

北上市<sup>あけほし</sup>の星幼稚園児40名が田植えを体験しました。農業研究センターの職員に苗の植え方を教えてもらい、一株一株丁寧に植えていました。田んぼに入った園児の皆さんはどろんこになりながら田植えを楽しんでいました。



## 一日子ども農業研究体験 平成24年8月9日(木)

「作物の生育を調べてみよう」「果物や野菜の味の違いを調べて楽しむ」をテーマに開催。北上、花巻市内の小学5年生23名が白衣を着用して果物の糖度や酸度の測定など、研究員の仕事を体験しました。

その後農業科学博物館で、昭和初期の米作りについて映像で学びました。



## 農の生け花展 平成24年9月2日(金)~3日(土)

農業研究センター参観デーに合わせ、県内の「農の生け花」愛好会の方々による「農の生け花展」が開催されました。

野菜や雑穀、野草等の花材をつば<sup>み</sup>釜や<sup>てあけ</sup>箕、<sup>いっとます</sup>手桶、<sup>いとわく</sup>一斗<sup>い</sup>杵、糸<sup>いと</sup>杵等の花器に、「実りの秋」「農への感謝と願い」を現した素晴らしい作品が、来館者を楽しませてくれました。

北上市の及川昭一さんによる「岳水流盆景」作品展も行なわれました。



## 農業科学博物館見学会 平成24年11月28・29日、12月5・6日

農業ふれあい公園農業科学博物館の施設を知って広く利用していただくために、見学会を開催しました。北上市社会福祉協議会の在宅高齢者の活動を支援している関係者79名の出席をいただきました。出席者からは、「昔を思い出しながら見学ができた」「素晴らしい施設があることを知ったので地域の人々の見学会を計画したい」等の感想をいただきました。



## 親子で体験！「お正月の松飾りをつくってみよう！」 平成24年12月23日(日)

小学生と保護者を対象に「冬休み体験学習会」として松飾り作りを行いました。北上・花巻市から参加した親子10組がわらのより合わせに苦戦しながら、紙垂（かみしで）や、みかん、松の小枝、笹竹などを飾り付け、しめ飾りを完成させました。「新しい年を迎える準備ができた」と作品を大切に抱え笑顔で家路に向かいました。

